

はらから

報恩講

左記の通り勤修いたします。
どうぞご参拝下さい。

日時 十一月十七日(日)

十時～十四時半

講題 「念仏のみぞまこと」

講師 寺澤真琴氏

清徳寺住職(日野町)
本願寺派布教使

その他 お昼にお齋(弁当)を
ご用意しています。

弁当の都合上、ご出席下
さる方は十一月十日(日)
までにお寺へご連絡下さい。

全面改装して公開しました！！
永順寺ホームページ



右のQRコードを読み取るか あるいは

スマホの「カメラ」「グーグルレンズ」「スキャンアプリ」を使います

URL: <https://konanzan-eijunji.com/>

または「浄土真宗 永順寺」で検索して下さい。

〒510-0043
大津市中央一丁目一三三
電話 〇七七一五二二一七六四六
住職携帯 〇九〇一七八七七一六四七
Eメール eijunji2020@gmail.com

◆◆◆ ページの構成 ◆◆◆

1 永順寺ほっとニュース **[更新]** [公開]

「伝言板」「こころの散歩道」

「フツぶつブログ」「よくある質問」

2 永順寺プロフィール [公開]

3 仏事を営むー葬式・納骨 [公開]

4 浄土真宗のおしえ [公開]

5 お問い合わせ [公開]

6 お寺からのお知らせ **[更新]** **[門徒専用]**

「はらから」「行事などのお知らせ」

[Link] YouTube **[更新]**

浄土真宗永順寺チャンネル

[更新] をお知らせします

[更新] のページは、随時更新します。
LINE を利用されている方で登録頂ければ、更新時にお知らせします。
「永順寺」アカウントから「友だち追加」して下さい。詳しくは裏面に記載しています。

「門徒専用」ページへの入り方

ユーザー名: **eijunji**
パスワード:

6iNfypRsZ5QW

を入力して下さい。

お寺からのご案内について

お寺からのご案内ですが、今年度中はこれまで通り郵送でお送りします。

永順寺ホームページの「お寺からのお知らせ（門徒専用ページ）」にも、行事の案内と『はらから』を掲載しますので、そちらでご覧頂くこともできます。年回の案内や維持金の依頼などは今後も郵送でお送りします。なお、次年度以降については、郵送料の値上げもあり、郵送とオンラインの併用も視野に入れながら検討します。

LINE（ライン）による通知について

ホームページの「1. 永順寺ほっとニュース」と「6. 永順寺からのお知らせ」に新しい記事やお知らせを投稿した時、LINEでスマホやPCに一斉に「通知」させて頂こうと思います。LINEを使っておられない方には申し訳ありません。お使いの方は、ぜひ登録下さい。

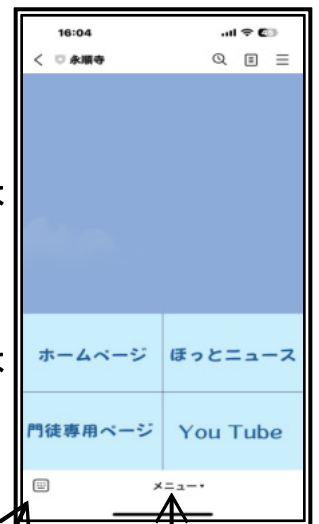
ご門徒の代表の方に限らず、ご夫婦、お子様等ご家族も登録して頂きたいと思っています。お寺からの発信がご家族の皆さんに届くことを願っています。

LINEグループ（永順寺公式アカウント）について

ホームページの公開と同時に、LINEの永順寺公式アカウントを取得しました。

公式アカウントでは、次のようなことができます。

- ①お寺から、登録された方（「友だち」といいます）に一斉に通知（一对多）できます。
- ②個人の「LINEグループ」のような複数の「友だち」とのチャット（会話）はできない設定ですので個人情報は守られます。ご安心下さい。
- ③「永順寺」アカウントの画面には、右のように4つのボタンがあり、そこからホームページ等に飛べます。ただし、門徒専用ページに入るにはユーザー名とパスワードの入力が必要です。



永順寺公式アカウント「友だち追加」の方法

- ①右下のQRコードを、スマホの「写真」「グーグルレンズ」等で写すとLINEの「永順寺」に飛びます。表示されたURLをタップ（タッチ）する場合があります。

文字を打つキーボードはここにあります。

ボタンが消えている時ここをクリック

- ②「友だち追加」の画面が出たら、そのボタンを押して下さい。
- ③すると、自動発信メールが届きます。届きましたら、お名前だけ書いたメッセージを送信して下さい。ニックネームで登録されている場合もあるため、必ず、氏名を書いて下さい。
- ④双方向通信の機能がありますが、通知専用のLINEとして利用しますので返信はお控え下さい。連絡はEメールや電話、手紙等をお願いします。



報恩講の昼休みにホームページやラインの設定方法について説明します。携帯をお持ちの方はご持参下さい。

「私は憎まない」

ガザの医師 アブエライシユ氏の言葉

十月七日

十月四日夜、何気なく4chの報道ステーションを見ていたら、パレスチナの医師、イゼル・デイン・アブエライシユと彼を追ったドキュメンタリー映画『私は憎まない』が紹介されました。一年前の十月七日はイスラエルのガザへの攻撃が始まった日です。そのこともあつて公開されたようです。

アブエライシユという人

そもそもアブエライシユ氏とはどういう人物なのでしょう。氏は、1955年ガザ地区の難民キャンプで生まれたパレスティナ人です(イスラム教徒)。経歴の詳細は省きますが、パレスティナとイスラエルの両方で不妊治療の専門家として治療にあたっていました。

2007年、パレスチナの武

装急進派のハマスがガザ地区を制圧すると、イスラエルのガ

ザへの軍事攻撃が始まりました。2008、9年、12年、14年、21年と大規模な軍事攻撃が繰り返されました。

自宅が標的に

そうした中、2009年1月16日。戦車からロケット弾2発が彼の自宅めがけて打ち込まれ、3人の娘と姪が頭や体を撃ち抜かれて即死。息子、娘、姪が重傷を負いました。

砲撃の直後、氏はイスラエルのテレビ局の知人に電話をしました。その知人はニュース番組



映画のパンフレットより

の司会中でしたが、番組を中断

して、電話の声をそのままTVに流しました。その中で彼は、

「私は憎まない」と語り、憎しみや復讐ではなく共存の可能性を語り出したのでした。

インタビューに答えて

報道ステーションでは、キャスターと彼とのインタビューも流されました。その時の彼の言葉を少し紹介します。

暴力の先には何も無い

私が絶対に受け入れられがたいこと、それは復讐です。考えもしません。復讐で娘たちは戻らない。娘たちは、若く気高く神聖でした。その魂は、崇高な大義や人類のために生かされるべきと信じています。これからも主張していきます。

暴力の先には何もありません。憎しみは暴力を生みます。暴力は暴力を生み広げていきます。

政治に女性の参画を

：：政治的リーダーに欠けているもの。それは女性です。女性性は、命を育む存在です。命を与える存在です。：：持続性がある、健全で平和で自由な世界にできる。(そのためには)女性の参画が必要です。機会と教育の向上が求められています。

分断に架け橋を

氏は著書の中で、次のようにも述べています。

今回の悲劇により私の信念はますます深まり分断に橋を架けようとする決意は固まった。：：過去はただ、そこから学ぶために存在する。

*

私のコメントは控えます。蛇足にしかありませんから。皆で、氏の言葉を受け止めて考えたいと思います。

《上映館》アツプリング京都

《著書》『それでも、私は憎まない』

亜紀書房

《今後の予定》

◇お慶き

十月二十三日(水) 十三時三〇分

◇南無の会(今昔ものがたり)

十月二十七日(日) 十四時〜十六時

銃後・戦後の生活のことなど終戦前後の経験、聞いた話でも結構です。戦争の記憶を語れる方がこれから減っていくでしょう。小さな事でも一度言葉にしてみませんか。

◇草引講

十一月二日(土) は中止します。

◇報恩講

十一月十七日(日) 十時

◇南無の会(親鸞聖人の生涯③)

十二月十五日(日) 十四時〜十六時

比叡山を降りた聖人は法然聖人の元へ。その後弾圧を受けて越後に流罪。赦免後関東に移られるあたりの話。

◇南無の会(親鸞聖人の生涯④)

一月十九日(日) 十四時〜十六時

◇南無の会(特別バージョン)

二月十六日(日) 十四時〜十六時

◇南無の会(「正信偽講座①」)

三月九日(日) 十四時〜十六時

◇春の彼岸会(OHIGANGSこと)

三月二十三日(日) 十時〜十三時

親鸞聖人の生涯①

現在、「南無の会」では、『正信偽講座』に入る前に聖人の生涯についてお話をしています。参加者にはテキストをお配りしています。折角ですので、そのテキストを何度かに分けて、『はらから』に掲載することにしました。ホームページの「ぶつブツブログ」にも掲載しています。また、YouTubeで動画配信もしています。合わせてご覧いただければ幸いです。

はじめに

親鸞聖人は承安二年(一一七三)、

現在の京都市伏見区の日野で生まれになったと言われています。誕生年の記録はありません。八四歳の時の直筆の書き物が現存していて、そこに書かれた年月日から逆算して、誕生年がわかります。

ここではまず、聖人誕生の時代背景を政治、宗教、社会の視点からみていくことにします。なお、以下で「聖人」とだけ

記載しているところは親鸞聖人を指しています。

(一) 公家政権から武家政権へ
聖人が生まれられた平安時代の末期は、政治の実権が公家から武家に移る大変動期でした。その様子を、世紀ごとに大まかに見ておきます。

〈九世紀〉 天皇親政から公家政治へ
桓武天皇が七九四年に平安京を造営し、天皇中心の政治が続きました。次第に政治の実権は公家へと移っていきました。

〈十世紀〉 摂関政治
公家の中でも藤原氏は天皇と姻戚関係をつくって摂政や関白となり、政治の実権を握りました。十世紀末から十一世紀、藤原道長、頼通の時代がその全盛期でした。

〈十一世紀〉 武士団の登場
十世紀後半から地方では、国司の子孫や豪族が力をもたげて武士団を形成するようになりました。畿内でも豪族が武官として朝廷や貴族の警護、官中の警備にあたるようになり次第に力をつけていきました。

東国で起こった前九年合戦(一〇五一〜一〇六二年)、後三年合戦(一〇八三〜一〇八七年)では国司に反抗した豪族を源頼義や義家が鎮圧して東国武士団の棟梁となっていきました。

〈十二世紀〉 武家政治の誕生
この頃になると、都でも戦が起るようになりました。保元・平治の乱(一一五六・一一五九)がそれです。天皇や上皇、藤原一族が二派に分かれて主導権を巡って争いました。その際、両派とも武士の武力に頼ったため、武士の力が一段と強まりました。

その筆頭が平氏と源氏でした。平治の乱で源義朝を打ち倒した平清盛は、後白河上皇の信頼を得て太政大臣にまで上り詰めました。

しかし、平家の専横は反感を招き、源頼朝を筆頭とする源氏一族が挙兵し、平家を壇ノ浦に滅ぼしました。文治元年(一一八五年)、聖人十二歳の時のことでした。
次回は、「(2) 仏教の受容と変貌」についてお話しします。